

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170201457		
法人名	医療法人社団 日翔会		
事業所名	グループホームつつじ (だんだん通り ユニット)		
所在地	鳥取県米子市米原6丁目9番23号		
自己評価作成日	平成22年8月30日	評価結果市町村受理日	平成22年10月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://fukushi-kouhyou.pref.tottori.jp/koukai/kig/kig_dtl_khn_320.aspx
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル111		
訪問調査日	平成22年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人おひとりが自分の力を発揮でき、その方らしい生活ができるよう努めております。「お客様には、楽しく生活して頂きたい」「生き生きとした笑顔が見たい」と、皆様の希望を取り入れてた企画を計画し気分転換がはかれるように取り組んでおります。クラブ活動(クッキング・唄う会・手芸)を継続的に開催し、好きなクラブに参加され楽しめます。地域の方々とも交流できる機会を多く持ち、地域と共に支え、馴染みの関係作りが出来るよう心がけ、地域行事に参加したり近隣のボランティアの方に来訪して頂いたりしております。また、併設のデイサービスとの合同企画への参加や、つつじサロン企画では、地域の方々のご家族様も交えお弁当を持って、フォーゲルパークや、花回廊に出かけたりもしております。施設内だけの支援とならないよう、地域の方の協力を得ながら、この地域で暮らしていけるように特に力を注ぎ努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

米子市街地の利便の良い場所にある事業所は、開設して満5年を迎えている。地域密着型サービスとしての役割を実現するために、地域の一人として行事等に積極的に参加している。また、運営推進会議やつつじサロンの活動を通して、地域の方の参加を呼びかけながら相互の交流を目指した活動を開設以来地道に続けており、その成果もあり、今年のつつじ祭りには昨年を上回る200人の参加が見られた。職員は日々利用者に寄り添いながら、個々の思いや意向の把握を大切にケアに取り組んでおり、利用者が穏やかに過ごしている様子が伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員から、応募した上で作成した基本理念と基本方針がある。一人ひとりが常に持ち歩いており、理念を述べる事が出来る。全体ミーティングにて理念の見直しを行い、理會を深めている	昨年の外部評価で指摘された理念の見直しについて検討し、開設時の理念とすることになっている。 職員は理念を実践につなげるための行動方針を毎朝唱和し、共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設時より自治会の会員となっており、催し物や行事への参加に努めている。公民館行事や地域の祭り、溝掃除や、草刈り、神社の清掃等の地域活動もお客様と一緒に参加している。散歩途中で地域のお宅の庭の花を見せて頂くなど交流できるよう務めている	地域の自治会員として催し物や清掃活動に利用者と共に参加。又、つつじサロンの活動や催し物に地域の住民の参加が見られ、双方の交流が年毎に活発になり、開設からの地道な努力が実りつつある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の高校や、地域包括支援センターと、地域で出来るボランティア・地域介護予防教室について話し合いを行ない取り組んでいる。また、地域の認知症相談窓口となっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設内外の活動状況を報告し、その内容について出席者の方々に評価をしてもらい、ご意見や提案、助言を頂き、施設内のサービスの向上に取り組んでいる。施設内で起こった事故についても報告を行なっている。地域住民の方も参加して下さり、避難訓練やつつじサロンにも参加して下さっている。	運営推進会議は定期的に行われており、自治会役員、老人会、住民、利用者、家族の出席がある。ホームが行う活動についても報告し、地域住民からの意見や助言、情報提供、提案がサービス向上につながっており、地域住民との交流の基にもなっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時に地域包括支援センターの職員さんに相談等を行いながら話し合いを行なっている。	運営推進会議に出席している地域包括センターの職員が窓口となっている。市で行う認知症サポート制度の取り組みに実習施設として協力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」については施設に掲示し理解できている。法人全体の研修に取り入れ勉強を行っている。玄関の施錠については毎月のミーティングや委員会での話し合い8:30～16:00は開放している	身体的拘束の排除について運営規定に定め、施設内に掲示しており、職員は研修、ミーティング等で理解を深めている。玄関は8:30～16:00は開放している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、高齢者虐待防止関連法について学んでいる。お客様が外泊・外出時や施設内で虐待されることがないように注意を払い、防止に努めている。施設内でも研修会を実施し、職員に周知している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県が実施する研修会に参加し地域福祉権利擁護事業や、成年後見制度について学んでいる。ご家族様に相談を受けた場合等にも、管理者等が話し合えるようにしている。前例として、成年後見制度を利用され、裁判所との話し合いに立会いを行なった例もある。また、職員へも周知出来るよう、資料の掲示を行なった。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には、お客様や、ご家族様に権利や義務についての説明を行なっている。また、お客様や、ご家族様の不安や疑問点については話し合いの場を設け理解、納得いただけるよう十分に説明を行なっている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、意見・苦情を表示出来る場を設け、外部の方やご家族等に対して、回答を行なっている。年1回お客様、ご家族様へのアンケートを実施し運営に反映している。アンケート回収後は施設玄関に掲示し閲覧できるようにしている	日常的に利用者家族の声を耳を傾けているが、年1回法人で利用者家族へアンケート調査を行い、運営に反映させている。調査の結果は施設玄関に掲示している。また、口頭で頂く意見や要望についても早急に対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談を行なっている。また、日頃から管理者は、業務中でも職員に声を掛けコミュニケーションを図るようにしている。お客様の日々のサービス内容と方向性については、カンファレンスや全体ミーティングで話し合い、現場の職員の意見を聞き決定している	全体ミーティングを月1回、各ユニット・カンファレンスを週1日行い、現場の職員の意見や提案を聞く機会にしている。職員からは、活発に意見発表があり、全員でよく話し合いを行い、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が、個人目標を立て、目標が達成できるようにサポートしている。個々の努力に対しては上司がきちんと評価し、やりがいを持って仕事ができるよう心がけている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験等の段階に応じ、研修での技術や知識を学ぶ機会を設けている。法人全体の研修にもなるべく多くの職員が受講できるようにしている。資格取得に向けても、法人全体で計画を立てバックアップしている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の相互研修へ参加し交流を図ったり、自施設以外の職員の意見や経験を聞きケアに活かしている。また、県や地域で行われる研修会や勉強会には積極的に参加できるようにしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設入所前には、管理者と職員にて必ず面談に伺い、お客様の今の思いを聞き、置かれている心身の状況を把握するよう努めている。また、出来る限り施設見学等もして頂き、施設の雰囲気を感じて頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入所前には、必ず面談に伺い、これまでの経緯を聞くと共に、困っている事や、不安な事も十分に聞き、今後のサービスについて一緒に話し合っている。待機期間には、定期的に連絡を取り現状を把握し、いつでも相談できる様にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に今の状況をきちんと把握し、現状で必要なサービスが何かを見極め、当施設で対応出来ない場合には、法人内外の各事業所のケアマネージャーや支援相談員と連携しながら、早急な対応が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、お客様と馴染みの関係を作り、一緒に過ごすことにより、日々の生活を共に楽しんでいる。会話の中から、不満や楽しみ昔の話を聞き、ケアに生かしている。季節行事や、調理・洗濯・掃除・野菜作り・裁縫等、生活の場面に応じ、お客様から教えて頂ける機会が多く持つよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、電話・お便りにてお客様の日々の生活の様子や、職員・ご家族様のお互いの気づきや思いを伝え、ご家族様と情報を共有し、喜怒哀楽を共に出来る関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との、墓参りや、近所の方が来設され交流を続けているお客様もおられる。お客様の要望で5年ぶりに故郷に帰られる等の個別の支援も行っている。連絡をとってほしいとの要望があった場合には、いつでも電話が出来るように支援している。	墓参りや知り合いの方との交流継続の支援、利用者本人の希望に答え、五年ぶりの帰郷など個別に支援している。また、利用者が入所前からのかかりつけ医受診時に馴染みの人に逢うことができると喜んでる事から、同じ曜日に受診出来るように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士協力し、洗濯物をたまたまたり茶碗拭きをされたり、気の合う方での外出することも支援している。また、お客様同士の、トラブルがないように職員が間に入り円滑な関係が築けるよう支援している。1F、2F間でも仲の良いお客様は行き来をして過ごされている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方に対しても、ご家族様からの相談を受けたりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でアセスメントを行い、出来る限り思いや希望が実現できるよう検討を行ない支援している。お客様の思いや希望・意向を元に、個別の行事企画をたて実現することも行っている。	職員は日常生活の中で利用者の思いや意向をキャッチするとメモ書きにし、それを元に個別の行事企画・検討している。お誕生日には希望を聞いて外出したり外食出来るように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントで得た情報を元に、日々の会話の中やご家族様や知人の面会時に話を聞き、どのような生活をされていたのか把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、言葉を記録に残し把握している。心身の状態の変化等は、記録と口頭にて申し送り把握している。職員が新たに気づいた、お客様が出来る事や要望はすぐに対応出来るよう、「うさみみボックス」を利用し、職員全員で把握し、ミーティングやカンファレンスで検討を行なっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様が自分らしく暮らせるよう、関係者の意見を含めて課題となる事をカンファレンスで話し合い介護計画作成に活かしている。毎月1回モニタリングを行っている	計画は利用者、家族の希望意見を聞いて、担当者会議で作成し、毎月1回モニタリングを行なっている。計画の見直しは3ヶ月に1回と定期的に行われており、現状に即した介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者会議に、ご家族様が参加される場合もあり、介護計画作成に活かしている。参加できない場合には、面会時やモニタリングの説明時に話を聞いている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスと連携しながら、運動会や外出行事等に参加できる機会を作っている。医療面や栄養面・運動・補助用具等でのアドバイスが必要な時には、デイサービスの各専門職(看護師・理学療法士・栄養士)に相談を行い、協力を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に入会し、地域の行事に参加出来るようにしている。また、地域のグランドゴルフクラブの方と交流を行っている。定期的に、近隣の高校のボランティアの受け入れも行なっている。また、地域の方や消防署立会いによる定期的な避難訓練も実施している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様、またはご家族様が希望された病院が、かかりつけ医となっている。また、訪問診療所が5ヶ所ある。かかりつけ医以外に受診する場合には、ご家族様と相談し医療機関を決め、受診後には、結果を報告している。ご家族が受診の付き添いをされる場合は、「病院受診時の連絡票」を記入し、受診をされている。	かかりつけ医は利用者、家族の希望する病院となっており、職員が同行、受診支援を行う場合は、結果を家族に報告し、家族が付き添う場合は受診連絡票を使い適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に変化があった場合は、併設施設の看護職員との連携を図っている。訪問看護を利用されているお客様に対しては訪問看護との連携に務めている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が生じた場合には、日頃の様子、及びサービス内容について情報提供し、安心して過ごせるよう支援している。ADL等を情報提供書とし渡している。また、入院中の面会も、職員が頻回に行い、ご家族様や、医療機関と情報交換を行い早期退院に向け支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所までできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	お客様の状態の変化が見られた場合には、医師、看護師、ご家族様、管理者、及び施設職員を交え、ご家族様の要望を踏まえ今後の対応方針について話し合いを行なっている	重度化や終末期の利用者には家族、医師、看護師、管理者、職員等関係者との十分な話し合いを行い、方針を共有している。職員は急変時の対応について研修を行い、ギリギリの状態までホームで支援を実施した例がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修の実施と、消防署に出向き、救命救急講習を実施している			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方にも参加して頂き年2回の昼、夜想定訓練を実施している。緊急連絡網にも地域の方の連絡先を入れていただき協力を得ている	消防署の指導をもとに、年2回昼夜想定訓練を実施し、緊急連絡網にも地域の人が登録してある。備蓄についてはリストを作成し管理されている。	更に自治会の消防団との協力体制や、非常階段の使用方法についても検討されると良いでしょう。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた言葉掛け、対応を行なっている。また、禁句集を作成し、プライバシーを損なうような言葉掛けはしないようにしている。記録等の個人ファイルにも、名前を掲示せずお客様の話をする場合には、実名を出さずに話をしている。申し送りも、お客様に聞こえない場所で行い、プライバシーの保護に努めている。	職員は行動方針に沿って利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを行っている。禁句集を作成してトイレに貼るなどの意識付けが行なわれている。プライバシーの保護には十分配慮されていることが確認できた。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間も自分で選んで頂けるようメニュー表を使ったりしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、本人のペースを保ちながら日々生活していただいている。お客様の要望の時間に食事をして頂いたり、お茶の際は、好きな場所で飲んで頂けるように、お客様の希望に添うよう、配慮し柔軟に対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際には、お客様に洋服を選んで頂いて、本人に気に入ったものを着用されている。外出には、帽子、サングラス、お化粧品などをしておしゃれを楽しまれている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を聞きながら、リクエストメニューを作っている。調理・茶碗拭き・盛り付け・台拭き・茶碗洗い等、個々のお客様の力に合わせて一緒に行なえるよう支援している。また、職員と、同じテーブルで食事をとり、会話を楽しみながら食事をしている。	献立は利用者の希望を聞いて作成している。職員は利用者と同じテーブルで食事を取り、後片づけも一緒に行って和やかな雰囲気が見られている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し、把握を行なっている。一人ひとりの状態に合わせた食事の提供方法を考え、食事摂取量の確保が出来るよう支援している。また、水分量の少ないお客様には、ゼリーや好きな飲み物を提供し、水分量の確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアへの声掛け、及び誘導を行ない、ホール洗面台にて歯磨きを行っている。また、一人ひとりの口腔の状態に合わせた、歯ブラシの検討を行ない使用している。また、曜日を決め、義歯をポリドントにて洗浄を行なっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをつかみ、定期的にトイレ誘導を行っている。トイレに目印を付け場所がわかるようにしたり、トイレ内も出来るだけ自分の力でできるように設置している	職員は個々の排泄パターンを把握できており、トイレの場所や使用する下着やオムツの種類などについては個別に検討し、対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味のお客様には、牛乳を飲用して頂いたりしている。生活の中に体操を取入れたたり、天気の良い日は、散歩に外出し、出来るだけ体を動かして頂けるよう支援している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様の要望やタイミングをに合わせて入浴して頂いている。お客様の要望により、毎日入られる方もある。	入浴は利用者の希望する曜日や時間帯にあわせて、個々に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の状態や、疲れ具合によって、各居室や、お客様の安らぐ場所にて休息できるよう支援している。寝付けないう時には、職員が話をしたり、飲み物を用意する等の配慮をしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のお客様の薬の目的・副作用・用法・用量について理解している。また、薬が変更になった場合は、きちんと申し送りを行い、服薬変更後のお客様の状態の確認と、状態変化が見られる時には主治医に連絡し指示を仰いでいる。服薬時は、きちんと服用できたか確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を生かし、また日課・役割となるよう支援している。また、個別に外出を行ったり、継続的にクラブ活動を行い、楽しみや気分転換を図れるよう支援している。お客様の力を生かし、お菓子作りや漬物・干し柿、野菜作り等の場面を作り、楽しめるよう支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お客様の要望により、好みの地域へ買い物にでかけている。地域に方との交流を兼ねてフォーゲルパークや花回廊へ一緒に出かけたりしている	事業所の近隣を範囲とする「お散歩マップ」が作成されており、コース内に地域住民と交流できる場所が掲載されている。利用者の希望でドライブや買い物、外食に出かけており、地域の人とも同行することがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方は、自分で管理されている。また施設で預からせていただいているお客様の中でも、店での支払いが出来る方は払って頂いたり等、その場面で出来る事を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望があれば、すぐに電話をかけることができるように対応している。また、家族や大切な方々から本人様宛に電話が掛かって来る事も、きちんと取次ぎを行っている。施設に届いたお客様宛てのお手紙も手渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気（生活感）が出せるよう、お客様が好まれるような花を飾ったり、季節感の分かる飾りつけを行い工夫している。また、食堂に居れば、家事の音、ご飯の炊ける匂いがし、時には音楽等を流している	食堂は広々としているが、その一角にソファとテレビが置かれ、くつろぎのスペースが作られている。テーブルや周囲の壁には花が飾られて季節感の感じられる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間としては、食堂が主である。お客様にくつろいで頂けるよう、テレビ前には、ソファを置いている。また談話室には、畳みを敷き、好きな場所でくつろがれている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へは、今まで使用されていた馴染みの生活用品を持ち込まれている。また、ご家族様の面会時や、外泊時に、お客様の好みや馴染みの物を継続的に持ち込み、居心地の良いその人らしい居室となっている	居室は通常ベットが置かれているが、利用者の希望を取り入れて、畳が敷かれた居室もある。今まで使用していた馴染みの生活用品が持ち込まれており和んだ雰囲気が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分でできることは見守り支援している。張り紙や目印の工夫を行い自立支援を促している。状態が変わり混乱や失敗が生じた場合には不安材料を取り除き力を発揮できる様に支援している。		